

と しょ かん 宇 治

No. 17

1989年2月1日 発行

宇治市中央図書館

宇治市文化センター内

▽611

宇治市折居台1丁目1番地

電話 (20) 1511



私と読書

宇治市図書館協議会委員

青木次彦

読書にもいろいろあって、一つは教養と娯楽のための読書で、今一つは学習と職業のための読書であろう。そう単純に分けられるものでもないしその必要もないことが多い。そして私は前者の方をより純粋な読書だと思っている。子どもの時に何かの拍子に本を読むようになるのは、まず身近に本があることが前提だが、簡単に言えばきつかけは一寸した好奇心からと言えよう。私の場合、幼児期父から聞いた『太平記』の楠本正成などの話がきっかけで、それが児童期になって当時刊行の『児童文庫』に収められた物語や歴史物の読書へと連なったようである。青少年期は文学書・哲学書を中心に学業の方が疎かになる程雑然と読んだ。社会人になってからは仕事柄多くの資料に目を通すこととなった。これは「学習と職業のための読書」である。

子どもの頃には、近くに図書館もなく、両親に買ってもらったものを含めて家庭などにあった本を読むほかなかった。図書館が普及した現今では、読み聞かせやストーリー・テリングも行なわれ、それが読書へと結びつくように配慮され、飛躍的に改善された。しかし本は増えつづけ、読みたい或いは読む必要のある本も増えつづける。読書施設は未だ十分とは言えない。繁栄を誇る日本の現状、今少し配慮されないものかと思う。五年目を迎える宇治の図書館の更なる発展を望みたい。

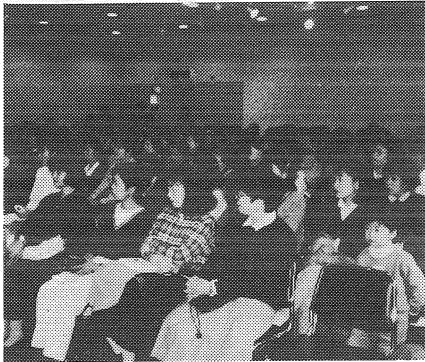
みんなが感動した 松居先生のお話

心待ちにしていた児童文学者松居直先生の講演が昨年の十一月十一日に中央公民館展示集会室において行なわれ、出席者一同深い感銘を受けました。松居先生ご自身の子育ての体験をまじえながら、絵本についてわかりやすく魅力的にお話しをして下さいました。

『(講演の要旨)現代には真の暗闇、寒さ、貧しさというものがなくなっているけれども、これらのものを知らない人間は成長しない。今は昔話がこういったものを体験させてくれる働きをしてい



る。そして、昔話は生きていく知恵と勇気を与えてくれる。また、人間はなぜ生きるのか、何によって生きるのかといった問題もほとんど物語の中にあり、そうした物語を沢山読んで聴かせ、あとは子供がその中から生き方を学びとっていつてくれればいいのである。親が子供をひざに抱き絵本を読んでやる



と、親の暖かい感情を子供は生き生きと感じるのである。また、幼児期に耳から聴くという体験がことばに対する豊かな感性を育てあげ、特に昔話をじっくり聴くと

いうことはとても大切な体験で、読む親に本当の思いがこもっていると読んでくれた親のことばで物語が子供の心と体に浸み込んでいくのである。このように親子で一つの物語を通して喜びを共感できることはとても素晴らしいことである。』

この話された一語一句に先生のお人柄がにじみでて、こういう親子関係が持てたらどんなにいいかと、胸が熱くなりました。「絵本は喜びと楽しみであり、子供に読んであげるものです。」ともいわれ、なるほどと思っても印象に残っています。

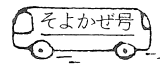
講演会当日、会場は二百名以上の聴衆で大盛況でした。そして、アンケートに記入されていた一口感想では、みんなが松居先生のお話に深い感動を受け、時間があっという間に過ぎた様子がうかがえました。

最後に私達のために、大切な時間をさいってお話し下さった松居先生に深く感謝いたします。

(絵本の会・木村記)



はしれ! そよかせ号



★「こんにちわ!! 車内は暖かいですわ。」と挨拶される方。
★「この本、おもしろくって、一気に読みました。」「ちょっと読みにくかったけれど、とてもいい内容の本で読みがありました。」と、ひとこと感想を言ってくさる方。

★「田辺聖子の新しい本、ありませんか。あの人の本、おもしろいんですけどなあー」と、本を捜している方。
毎月一回、二十五カ所の駐車場を巡回して本を貸し出す移動図書館車「そよかせ号」の車内では、顔なじみになった利用者と職員の話がはずみずみです。

図書館は、「本との出会いの場」です。さらに、そよかせ号では狭いスペースでの貸出という要素もプラスして、「本と人との出会いの場」でありたいと考えています。本についてのお問い合わせ、そよかせ号への要望など、どうぞお気軽にお寄せください。そして、今年も、楽しい雰囲気のもとで沢山の本と出会ってくださいませう願っています。

図書館へようこそ

利用者インタビュー

第 6 回

川 島 由 里 子 さん



「図書館は私にとってはなくてはならないもの」と話される川島さん。「図書館へようこそ」今回は、神明宮北にお住まいの川島由里子さん(二十一歳)を訪問しました。

— 図書館のご利用は……。
月に二〜三回行きます。
— 利用されて、感想を聞かせてください。
— リクエストを出しても絶版など

で手に入らないことがあります、できるだけ要望にはこたえてほしい。書名目録のように著者名による目録もあればよいと思います。また、上の方の書架は高く、私には届きにくい感じがします。
— 図書展示や新書案内についてご意見をどうぞ。
— 展覧かなければ知らなかった本もあり、図書展示は継続してやってほしい。新書案内は、いつも参考にしています。
— 図書館の蔵書のことでお聞き希望がありますか。
— エッセイが好きなのもっとたくさん入れてほしい。また、雑誌で、ロックなど洋楽のものも置いてほしいと思っています。それに、図書館にカセットやCDなどの資料があれば借りて聞きたいです。
— 川島さんと本とかかわりについて教えてください。
— かわりに本があったこともあり、家で本を読むのが好きで自然に好きになりました。推理小説が好きで話題の本はよく読みます。
— 図書館全体について要望がありましたらお聞かせください。
— 雑誌はすぐ読めるので、三冊の貸出冊数は少ないと思います。もう少し多くしてほしい気がします。
— ありがとうございます。

さんほみち

毎月、視覚障害者向けの「声の図書館だより」が届いた頃、「今月のおたよりで紹介されていた。〇〇のテープ図書を借りたいのですが……。」という申し込みの電話が次々にかかってきます。もう、すっかりおなじみになった利用者の声を聞くと、熱心に聞いてもらっているんだなあ、とうれしくなります。
視覚障害者サービスは、六十年四月にスタート、点字図書・テープ図書の貸出や対面朗読などをこなしています。社会福祉協議会や宇治リーディングボランティアサークルのご協力により、朗読ボランティアの養成や、毎月一回「声の市政だより」のテープの最後に、「図書館だより」を吹きこんでいただいています。この「図書館だより」の内容は、テープ図書の紹介や図書館の様子・利用案内が中心ですが、これを聞いて新しい利用者も増えましたし、冒頭で述べた様な反響もあり、正に利用者図書館を結ぶパイプ役となっています。
さて、今一番人気があるのはテープ図書で、三浦哲郎「忍ぶ川」や向田邦子「かわうそ」などがよ

く貸出されています。これらすべて他館からの借用です。郵政省の認可を受けて、盲人用録音物は無料で郵送できるように、来館しなくともポストに投函するだけで貸出・返却ができます。貸出しは大幅に増え、昨年度、十一人に六十七タイトル貸出しました。
一方で、点字図書の貸出や、対面朗読の利用はいま一つ低調です。サービス実施後三年になろうとする現在、これらの現状を見ながら、もっと気軽に図書館を活用していただくために、智恵と工夫を出し合い前進していきたいと願っています。
最後に、これらの制度を利用できる人は、身体障害者手帳をお持ちの視覚障害者の方で、市内在住か在勤・在学の方となっています。

▼臨時休館のおしらせ▲

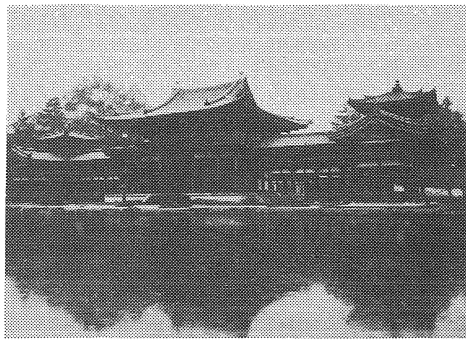
コンピュータの切替えのため、三月一日は臨時休館とします。なお、このため、通常の休館日である二月二十七日(月曜)、二十八日(月末)とあわせて三日間休館となります。ご迷惑をおかけしますが、どうぞご了承ください。

郷土のはなし

「山城国一揆」

みなさんは「山城国一揆」をご存知でしょうか。これは、室町時代の終り頃、南山城で地侍や民衆が団結して一種の自治的組織をつくったできごとで、「戦国期の国民議会」とも呼ばれました。

そのころ南山城一帯は戦乱で荒れはてて民衆たちは大きな打撃を受けていました。戦乱は山城の国（京都府南部）の守護家であった畠山義就と畠山政長の戦いでした。両派の戦乱に困りはてた地侍や民衆は、団結して軍勢を撤退させよ



山城国一揆の集會が開かれた平等院

うとしました。ついに文明十七年（一四八五）十二月十一日、下は十五・六才から上は六十才までの地侍・民衆らは集會を開き、両畠山軍への撤退要求をつきつけました。撤退しなければ攻撃も辞さずという一揆の要求に軍勢は追いつけられませんでした。この最初の集會の場所は不明ですが、翌年二月十三日に開かれた一揆の集會の場所は宇治平等院です。そこで、国の掟法（おきて）を定めたのです。また自分達の代表を惣国月行事と呼んで選んでいます。まさに自治的な組織で、南山城地域を戦乱から守ろうとしたのでした。

この「山城国一揆」は、少なくとも明応二年（一四九三）まで八年間は続いたといわれます。明応二年になって、京都で政変が起こり管領細川政元が政権をとりました。その結果、南山城にも軍事支配が強まり、幕府の先兵として古市澄胤らが入ってきました。地侍民衆らは、あくまでそれに抵抗しようとする派と、細川氏の支配下に入ろうとする派に分裂してしまいました。国一揆は敗北したという考えもありますが、このような地侍らの連合が戦国時代の統一の原動力になっていったといえるのではないのでしょうか。

編集後記

◆ 昨年の松居直先生の講演は、参加者に深い感銘を与えました。「いつまでも子供の心に残る本を提供していくこと」私たちも

◆ この原点を見つめ直したいと思っています。早いもので宇治市中央図書館も五回目の春を迎えました。今後とも、より一層の質的充実をめざします。よろしくお願ひいたします。

本をかりるには

一 利用案内一

- 中央図書館**
市内にお住まいの方、市内に通勤・通学されている方などなたでもかりられます。
- ・貸出は、1人3冊、3週間です。
 - ・開館時間は、9時～17時です。
 - ・休館日は、毎週月曜日・毎月末日
国民の祝日・年末年始
土曜・日曜もあいています。

- 移動図書館**
月に市内25カ所を巡回しています。
- ・貸出は、1世帯に20冊までです。
 - ・次回巡回日に返却して下さい。
 - ・日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかぜ号」巡回日程をご覧ください。



予約・リクエストもできます。